

9-1 北柏木区画整理エリア

戦災復興でエリア全体の区画整理が行われ、道路のたくさん通る整った住宅地のまちなみが形成されています。区画整理されてはいるものの、エリアの東西を貫く大正時代からの道路は残されたため、扇型の街区形状が特徴となっています。角地の建築物や植栽がアイストップとなっている叉路や、大きなすみ切りのある交差点がエリアの景観を特徴づけています。



景観特性



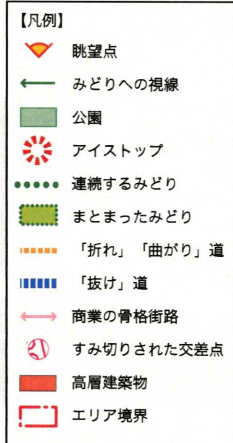
神田上水公園



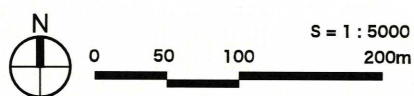
JR沿いのみどりの帯



中央の商店街



北柏木公園



S = 1 : 5000
200m

1. 見通しとアイストップの景観



古くから残る中央の道路を中心として、放射状に伸びる東西方向の道路と扇型に折れ曲がった環状の道路が通っています。東西方向の道路沿いはエリアの周縁部に向かって見通しの良い景観となっており、一方、環状の道路沿いでは折れ曲がりによりまとまりのある景観となっています。

2. 包むみどりと核となるみどり



エリアを包み込むように、周囲には神田上水公園の並木、JR中央線沿いの緑地、小滝橋通りの街路樹があります。またエリアの内側には、北柏木公園や大東橋公園の核となるみどりがあり、アイストップとなっています。

3. すみ切りによるまちかどの景観



エリア内のほぼ全ての交差点には、戦災復興区画整理事業が行われた際に施された大きなすみ切りがあります。四隅を切られた交差点には、まとまりある「まちかど」が形成され、エリアの景観を特徴づけています。

景観形成の目標

整った道路基盤をいかしたみどり豊かで整然としたまちなみへ

区画整理によって整えられた景観の基盤を踏まえながら、まちかどやみどり、道路の曲り具合などをいかして魅力あふれるまちなみを創出する。

景観形成の方針

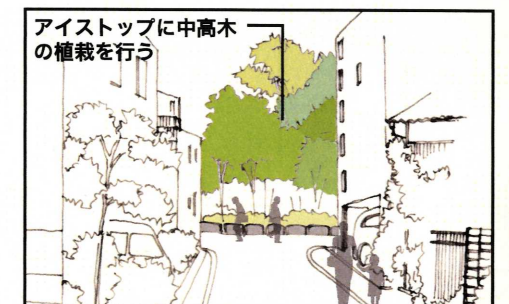
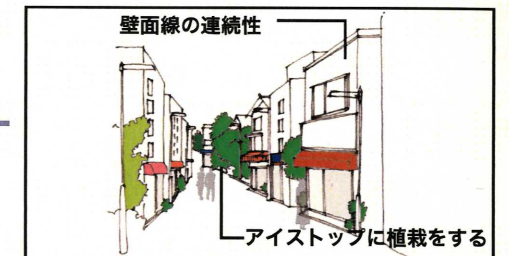
1. 整った道路基盤をいかした景観をつくる

景観形成の考え方

区画整理エリア特有の整った道路基盤や大きなすみ切りによるコーナー部、中央を貫く骨格となる道路の賑わいをいかした多様な景観形成を図る。

具体的な方策

- 壁面線の連続性に配慮する
- 周囲と調和した壁面の分節化を図り長大な壁とならないよう配慮する
- 中央を貫く骨格となる通りでは、低層部は賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- アイストップとなる部分では、建築物の意匠的な配慮を行うか、または中高木の植栽等を配置する
- すみ切りのあるコーナー部に面した場所には、エントランス等開口部を設けるか、もしくは植栽等を配置する
- すみ切りのコーナー部に面した建築物の各面は、調和した意匠とする



アイストップの修景

2. まとまったみどりをいかした景観をつくる

景観形成の考え方

JR中央線高架沿いのみどりや、北柏木公園、大東橋公園などのまとまったみどりをいかした景観形成を図る。

具体的な方策

- JR中央線高架沿いでは、並木や生垣等の連続した緑化を行う
- 公園などの周辺では、積極的に緑化を行う



コーナー部のまちかど

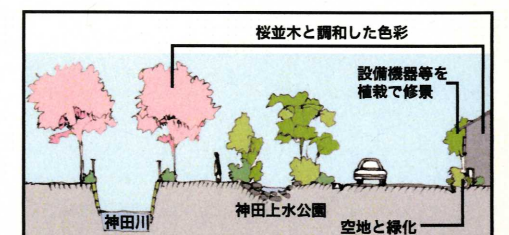
3. 神田川からつながる潤いとみどり豊かな景観を創出する

景観形成の考え方

景観資源である神田川と神田上水公園からつながる、みどり豊かな景観を創出する。

具体的な方策

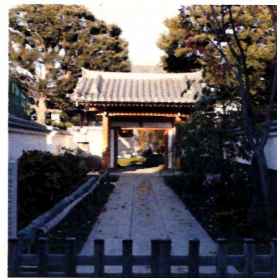
- 橋や対岸からの見え方に配慮し、特に桜並木の上から見える部分の色彩は低彩度のものとする
- 外壁の色彩は水やみどりと調和したものとし、特に、彩度の高いものは避ける
- 直接遊歩道に接する場所では、設備機器等が見えないよう植栽等で修景する
- 遊歩道側には空地をとり、積極的に緑化を行う



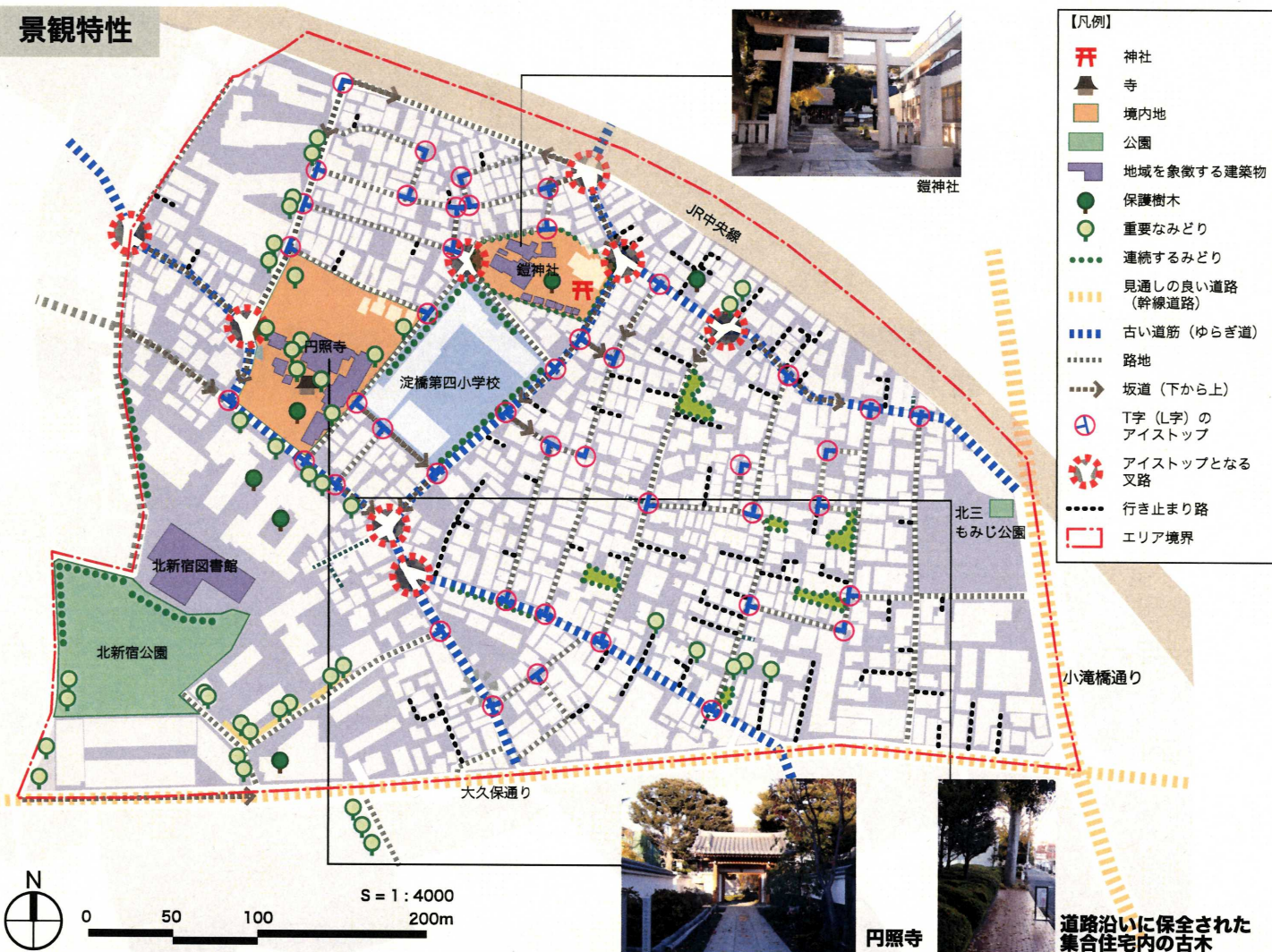
神田川のみどりへのつながり

9-2 円照寺周辺エリア

平安時代から続く円照寺、江戸時代から続く鑑神社など由緒ある寺社があるエリアです。エリアの大部分では住宅が密集していますが、明治時代の大邸宅や農地の名残りを留め、現在でも古くから残る大木やゆとりある敷地規模の場所があります。また、道路は江戸時代から残っているものが多く、左右に緩やかに曲がりながら、まとまりのある景観となっています。



景観特性

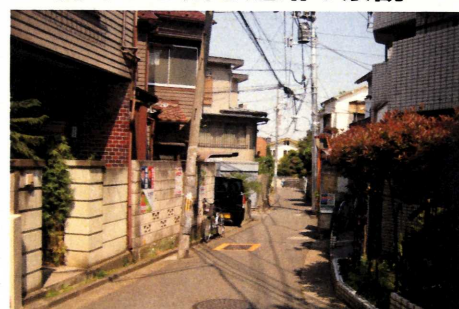


1. 寺社のおもむき



エリア内にある円照寺と鑑神社は、重要な景観資源であり、このエリアの景観の核となっています。そのおもむきとともに、豊かなみどりは周囲の景観に落ち着きと潤いを与えています。

2. 古くから残る道路の景観



エリア内の道路の大部分は、江戸時代から残っているものです。そのため、緩やかなカーブが多くあり、まとまりのある落ち着いた景観となっています。また、交差点は様々な方向からの道路が交わる叉路となっており、アイストップとなっています。

3. 邸宅の面影と古木の景観



エリア内には、かつて大邸宅であった場所が多くあり、そのため、学校や福祉施設などの大規模敷地が多数存在しています。古くから残る大木や並木が残されている場所もあり、歴史を感じさせます。

景観形成の目標

寺社や邸宅跡地の雰囲気と調和した落ち着いたゆとりあるまちなみへ

旧邸宅や寺社・公園といった大規模敷地のもつみどりとゆとりを核として、その周囲にも落ち着きとゆとりのあるまちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 円照寺や鑑神社周辺では寺社の雰囲気と調和した落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

景観資源である円照寺や鑑神社周辺では、寺社の落ち着いた雰囲気と調和した景観の形成を図る。

具体的な方策

- 寺社の雰囲気と調和した落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 特に、境内から見える場合は、境内からの眺めに配慮した形態意匠および色彩とする
- 外構や植栽は寺社の雰囲気と調和させる



寺社の雰囲気と調和した景観

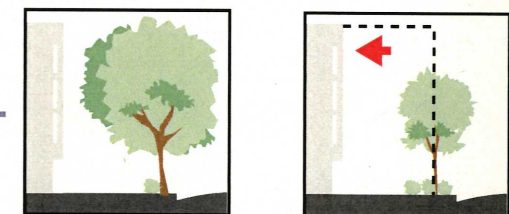
2. 大規模敷地のゆとりをいかしたみどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

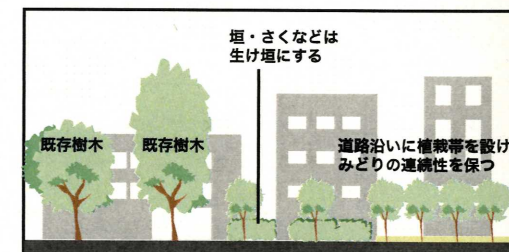
旧邸宅地が集まっていたこのエリアでは、その跡地が現在でも比較的大規模な敷地として利用されている。この大規模敷地のゆとりをいかした景観をつくる。

具体的な方策

- 既存の樹木(特に連続する樹木群等)を保全する
- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 垣・さくなどは生垣とする



既存樹木は残す 壁面後退し植栽する



大規模敷地における沿道景観

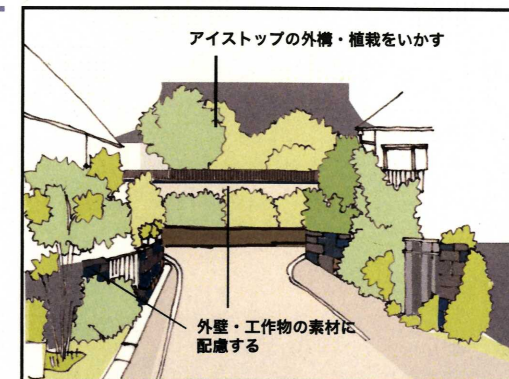
3. アイストップをいかした景観をつくる

景観形成の考え方

江戸時代から残る道の曲がりやT字路、曲がり角などのアイストップをいかした景観をつくる。

具体的な方策

- アイストップの位置にあたる場所を緑化する、または外壁の素材や意匠を工夫する



壁面後退し植栽する

